

## くわばら、くわばら カミナリ除けには絶縁パテ R25-R26

永く眠りについていたバイクを生き返らそうとする際、ガーゼ巻きの点火コイルはほぼ確実にアッチの世界に行っています。火事場から拾ってきたような黒焦げのコイル、カブトムシが寄ってきそうな樹液状物質が垂れているものはアウトです。見た目はマアママで始動もできる。エンジンが暖まるとスパークしない。ツーリングで一旦休憩すると再始動不可、外気温並みに冷えるとスパーク再開、乗れる時間が徐々に短くなります。

R25、R26に使われているこの点火コイルはボッシュ電装仕様の他のドイツ車にも採用されています。いまでもリプロダクション品が入手できます。本当はバッテリー点火車なので熱的に厳しい電装カバー内に装着する必要はなく、シート下などで冷却に有利なところに国産6V品を流用することもできますが収まりが悪いなどスツキリしません。

リプロ新品を奢り、いざ発進！ 毎回イキツキをしてモタツクことがあります。始動性も良くないことが多いようです。この手のモデルはキックオンリーなのでキックしながらポイントやイグニッションコイルを見ることはなかなかできませんが電装カバーを外して夕方などのうす暗いころ合いにキックするとプラグコード接続部やターミナル部分から「バチバチ」と音を立てながらアークが飛んだりします。リークです。スパークプラグのエアギャップでスパークするより近道があれば電気はいちばん楽な道を選びます。電装カバーを外した状態では絶好調でも「よし、治った」と電装カバーを付けると調子が悪い時はカバーに逃げています。

ボッシュ純正と同じスペックで再生産しているのであれば往年の性能を発揮できるはずですが、、、悪魔の囁きに耳を貸したのではないのでしょうか。「60年も前の部品を今の技術で作れば高性能なモノができるよ」「どんな?」「巻き線も細くて丈夫なものがあるので従来品の3割アップや」「なら、そうしようか」。筋力アップしても関節が負けてしまう。心臓を強化しても血管が切れてしまうなどと同じことが起きている?? コイルの一次抵抗が低ければ強力なスパークが出ますがポイントが焼けてしまい、すぐ不調になる。プラグから強力火花が出る前にコイルのそばのアースに逃げてしまう結果になったりします。



R26ダイナモ レギュレーターは電子式に交換



このコイルは火事場仕様 カブトムシも寄り付きません

**CRIMECA**

液状ガスケット、パッキン紙、ゴムキャップ、ゴムシートなどトライしましたが良い結果は得られません。固まらない粘土のような絶縁パテが絶大な効果がありました。硬化型パテでは振動で割れてまた剥き出しになってしまいます。デブリは噛み込んだり悪さをするかもしれません。

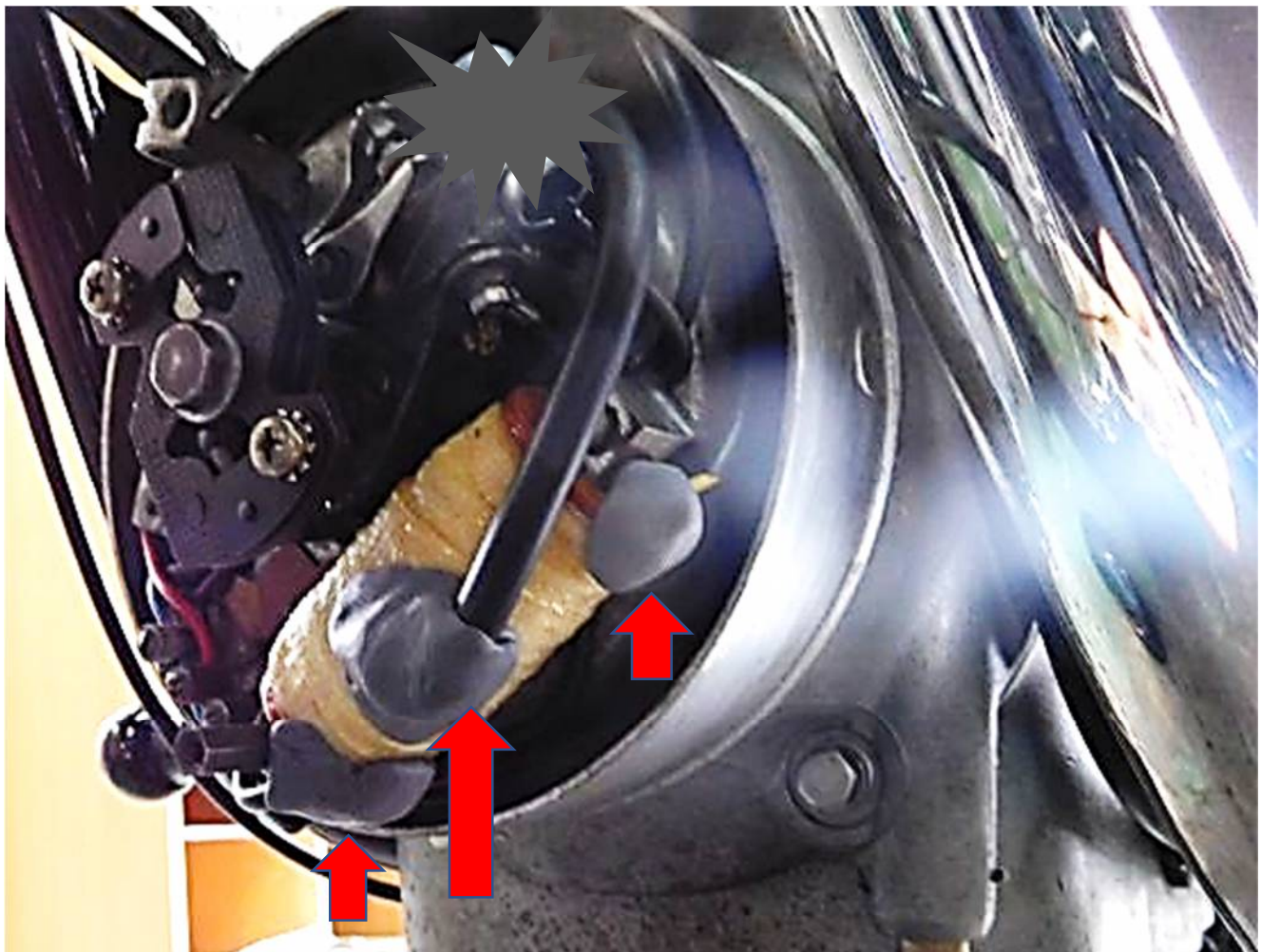


リプロダクションのイグニッション・コイル



不乾性／防水性／電気絶縁性

ホームセンターでも購入できるのがウレシイ



硬化しないので何度でもトライ&エラーできます 粘土状なのでよくクツキます